

■ 七夕の豪雨 ■

雨というものはこれほどに恐ろしいものなのか。日本列島を記録的な豪雨が襲った。西日本に発表された大雨特別警報は、11府県にも及ぶ。土砂に押し潰された住宅、一面が水につかった街並み。ようやく水が引き始め、爪痕が見えてきた。だが、被害の全容は明らかになっていない。

七夕の空に流れる天の川を楽しみにしていた子どもたちもいるだろう。その空を覆い尽くした暗雲から叩きつける雨粒に、昨日まであった住処が、家族との団欒が、生活する街が、突然流された。死者・安否不明者が合わせて200人を超える。平成最大の被害になった。平穏な日常を取り戻すのに、どれくらいの月日がかかるだろう。

そんな中、レスキュー隊や自衛隊による懸命の救出活動が続いている。ヘリコプターやボートで運ばれる人。時間は掛かるが、一つひとつの命を丁寧に救う。ひとりでも多くの無事をただただ祈りたい。

タイ北部でも、雨による浸水で地元サッカーチームの少年12人と男性コーチ計13人がタムルアン洞窟に閉じ込められた。行方不明になって10日後に発見された場所は入り口から5kmほど奥だった。誕生会を開くため持ち込んでいたお菓子などを均等に分け合って命をつないでいた。

総勢約90人、外国人13人を含む潜水土士18人が救出活動に当たり、18日目にしてようやく全員が助け出された。不可能だと言われた救出を諦めずにやり遂げた救助隊には頭が下がるが、少年たちの命を未来へつなぐために、ダイバーが1人犠牲になった。

人間を含めた生き物に自然がもたらしてくれる恵みは大きい。しかし、それは突如として牙もむく。太古から繰り返されてきた地球上の営みであるが、近年、自然の猛威の周期は短くなり、規模が大きくなっている。

その原因は温暖化といわれている。それを少しでも止めるために、我々ができる手立ては何か。ささやかながら、改めてエネルギーの無駄使いをなくそうと思う。あの激流も一粒の雨が集まったものだ。そう考えれば、ほんの少しの節電でも、集めればきっと大きな力になる。そう信じたい。

雨の中、近所の保育園で笹に結ばれた短冊が揺れていた。子どもたちのささやかな願い事が揺れていた。